




「何だ…？」





気が付いたらどこかの部屋
清潔に片付いている
この場所で目を覚ました。

服は何で脱げているのか
よく分からない…




ガチッ

とりあえず
体を動かないと…

じー


!!






初めて見るメイドさんが
平然と自分の体を見つめることに
思わず緊張してしまった

——それより誰だ？



マスター
起きましたか？

突然マスターと呼ぶ
あのメイドは平然と
自分の元気を尋ねた。

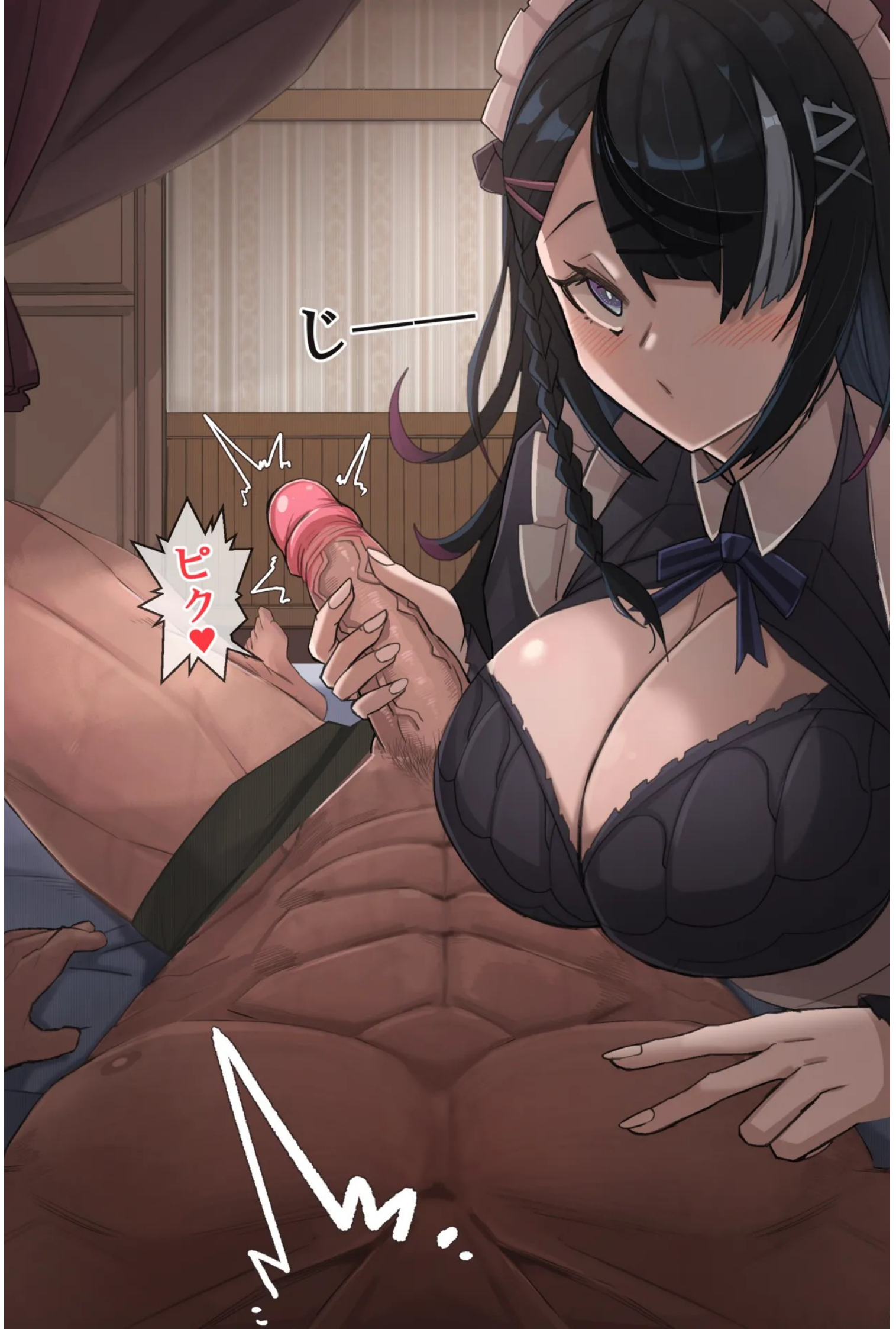


あ、緊張したようで
大丈夫です。

リラックス
させますので

妙な緊張感が流れる。
一体何をしたいのか…

サラッ



じー

ピク
♡

→

すると、いきなりメイドは
自分の性器を手握って
ゆったり自分の目を合わせた

りっぱなものを持っ
ていらっしやいますね

それでは失礼します






あゅぽ

じゅぽ

……ッ！

んんッ！



リズミカルに手を動かす
彼女は楽しそうに
こちらを眺めていた

我慢しなくても
いいです。

すぐに楽に
してあげますので

あゆふ
じゆふ



また失礼します。

にっ。。。

グッ





♡

プルン

♡

!!

どうですか？

すると、清らかな胸を
現わす彼女は
うきうきした顔でほほえんだ

少しは楽しめ
そうですか？

あ、ビクツと
してますね。





あっ……!

あっ……

あっ……

さあ、がんばれ〜

嬉しそうに、顔に熱気を出す
彼女はさらに
動く速度を高めた

もうすぐですよ〜

あ、来た…
♡





いっぱい
出ましたね
❤

精一杯中身を出し切って息をつく
と「よく出来ました」というような
彼女は優しい口調でささやいた

トロオ

よしよし



サラッ





以降、自分の体を拭いた彼女は
手の水気を乾かしテ、こちらを
見ていた

これでリラックス
できましたか？

相変わらず訳が分からないが、
彼女は平然と語り継いで
自分の体を観察した


マスター



それではもう一度…

あら、まだ足りない
みたいですね♥

リラックスどころか
頭の中は混乱していた。
その表情を見て気づいた彼女は
もう一度微笑んで口を開いた。

A manga-style illustration showing a woman in a black and white maid uniform standing at the foot of a bed. She has dark hair with a white headband and is looking towards the camera with a slight smile. Her hands are clasped in front of her. The bed is occupied by a muscular man whose back is to the camera. His back muscles are highly detailed and prominent. The room has wood-paneled walls and a window with curtains in the background. A speech bubble is positioned above the woman.

失礼します



スッ——

すると、どっしりしたお尻が
こちらに向かってきた。


プルン

まだ言葉を取り出す前に、
そのお尻に視線を時か
ないその瞬間！



ドサツ——！！

！！



尻の重さにチンポが
押さえつけられて
しばしの痛みが走る

きゅっ...

しかし、やわらかい感触
とともに心地よい感覚で
あそこから熱気がやってくる。



ズルルル



ブチュウツ



ズルルル


繰り返されるお尻の柔らかかな
摩擦によってカウパー液が
出始める。

ブチュウツ

体の中から湧き上がる熱気に
うめき声を我慢していたら、
彼女はますますスピードを
上げ始めた



ズルルル



もう我慢できないような
感覚に身震いすると、
彼女はさらにテンポを
上げていた

ブチュウツ

そのまま彼女に身を
任せてうめき声を流した




ズルルル



びくっ

!!






そのまま射精してしまった
感覚に身体がだるくなるの
を感じたら、
どうでもよくなった。

ただ休みたいという感覚で
頭が回らない





彼女は振り返って自分を
見つめながら
魅惑的に笑っていた

まだ何も知らない状態であるが
多分ここにずっといても
いいんじゃないかと思った

これで気持ちよく
眠れそうですね。

次も嬉しく
ご奉仕します。

彼女の言う通り、
もう目が閉じてきた。
気だるい感覚を最後に
彼女の言葉が深く刻まれた

マスター！
❤️

